

平成 26 年度 津山市立秀実小学校

改善プラン「平成 26 年度全国及び岡山県学力・学習状況調査」今後の取組について進捗状況（12 月）

	学校の取組・改善方法 <small>（課題に対する改善方法）</small>	進捗状況 <small>（学期末時点）</small>	3 学期及び来年度へ向けて <small>（具体的な達成目標や数値目標等）</small>
	毎日ドリルやプリントを宿題に出し、提出できているかチェックし、指導する。 （学年末までに 8 割以上提出できるようにする）	A	担任が、宿題の提出状況を毎日点検した。忘れてたり間違ったりしている場合は、できるだけ休み時間に取り組みさせるようにした。今後も、忘れてたり間違ったりしている場合は、休み時間を使ってやり遂げさせるようにしていきたい。
	学習のまとめを行う際、提示された条件を満たすようにノートに書くことができているかチェックし、指導する。 （2 学期末 6 割以上の児童を書けるようにする。）	B	「2 学期末までに 6 割以上の児童を書けるようにするという目標は、どの学年も概ね達成できた。今後も、書くことが苦手な児童に対する支援や指導を引き続き行うことで、条件を満たしたまとめが、学年末には 8 割以上の児童ができるようにしていきたい。
	P T A と協力してノーマディアの取り組みを年 5 回行う。取り組みカードの提出を高め、意欲付けや、実施状況を把握し、次回の取り組みに生かす。 （1 学期よりも提出率を増やす。）	B	今年度も、ノーマディアチャレンジカードを作成し、取り組んでいる。2 学期の第 4 回目では、中学校の期末考査の時期に合わせ、家庭で取り組みやすくした。2 学期の 2 回目では、取り組みを学級便りで呼びかけたり、再取り組みをおこなうなどしたりした。その結果、3 つの学年が 100% という達成率であった。今後もいろいろな機会をとらえて、保護者にさらにアピールしていきたい。
	学びの定期便を毎月活用する。 （毎月活用する）	A	今年度も「学びの定期便」を全校で活用している。ハイチャレに取り組んでいる児童もいる。 今年度は、児童の知的好奇心の育成を目指して、学期 1 回縦割り集団を活用した「秀実学力フェスティバル」を計画・実施してきた。今後も引き続き充実させたい
	「児童に読ませたい本」として各学年にリストアップしたさくら文庫をしっかりと活用させ、だいたいの活用状況を把握する。	B	さくら文庫の活用については学年によりばらつきがあったが、図書便りで、昨年度の学年との読書量の比較などを行ったり、各学年で表を活用して読書力の向上を図っている。どの学年も図書室の利用は、よくできている。

進捗状況・・「S：目標を大きく上回った（100%を超えている）」「A：目標を十分達成できた（85%以上 100%未満）」「B：目標を概ね達成できた（70%以上 85%未満）」
 「C：目標をある程度達成できた（50%以上 70%未満）」「D：目標をあまり達成できなかった（30%以上 50%未満）」「E：目標を達成できなかった（30%未満）」